# 世田谷村日記

石山修武

六月八日

木本一之氏から厚生館子供像、タロイモの葉照明の写真他送られてきた。良い。早く実物を見て触れてみたい。十時前星の子愛児園近藤理事長、園長先生と打合わせ。弥彦工務店とブリッジ増設打合わせ。十一時半過迄、西調布で用事をすませ、十四時前大学で李祖原、アンをピックアップ。我孫子真栄寺を訪ねる。十六時到着。馬場昭道李祖原と会う。李の建築が巨大なのを知り、馬場昭道、それなら牛久大仏見に行こう、と言い出し、近いと言うので出掛けた。どうせ、方々にある巨大観音の大キッチュの類いだろうと思って行った。昭道さんのお陰で特別許可を得て、閉門時間は過ぎていたが、牛久大仏を間近に仰ぎ見た。百聞は一見に如かず、高さ百二十メーター、重さ三千トンの巨大大仏は仲々に見事なものであった。中国人仏師が指揮をとって台湾で十年前程に製作し、日本で組み立てられたもののようだ。李祖原はその故事を知っていた。東本願寺、大谷家の仕事らしい。巨仏の周囲は霊園で墓が分譲されている。巨仏はその墓地の価値を上げる為の装置であるのだが、大仏のシェルターである筈の寺院は、ここでは巨仏の基壇内に納められている。寺院建立には、多くの僧が必要となるだろうから、その運営を避けたのであろう。墓地販売の広告塔としての巨仏である現実がストレートに立ち上がっているのである。やっぱり仏像は建築に納められているのが良い。寝仏は風にさらされているのがよく似合うが、座ったのや、立ったのはどうもムキ出しなのはいただけない。しかし、牛久の巨仏それ自体は仲々良いものであった。十八時過真栄寺に戻る。昭道さん、李の為に正装の法衣を身につけ、お経も上げてくれた。昭道さんの南無阿弥陀仏も仲々風格がにじみ出てきている。昭道さんの奥様手作りの精進料理をいただく。李と昭道は浄土真宗と禅宗との、中国仏教と日本仏教との違い、同根についていささかの議論をしていた。二〇時過真栄寺を辞す。李の印象は昭道は全く良いキャラクターで、実にフレンドリーであると。良い友人になってくれれば良い。私も日本仏教の本家は中国だろうといささか雑に考えていたのだが、二人の話しを聞いていると、日本仏教の複雑多岐な表現のされ方にはすでに、日本独自のアイデンティティーがあるらしい事がようやく解ってきた。帰りはナビの機械にも慣れて、一時間程で李の宿舎がある早稲田へ。世田谷村には二十二時過帰着。